

貸借対照表

(平成16年3月31日現在)

〔百万円未満切り捨て〕

| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
|--------|---------|-----------|---------|
| (資産の部) | 百万円 | (負債の部) | 百万円 |
| 流動資産 | 79,686 | 流動負債 | 38,893 |
| 現金預金 | 11,502 | 支払手形 | 6,181 |
| 受取手形 | 837 | 買掛金 | 22,019 |
| 売掛金 | 41,539 | 未払金 | 2,431 |
| 有価証券 | 2,599 | 未払法人税等 | 2,472 |
| 製材 | 2,413 | 未払消費税等 | 328 |
| 原仕掛品 | 442 | 未払費用 | 3,630 |
| 貯蔵品 | 13,037 | 預り金 | 85 |
| 繰延税金資産 | 270 | 設備支払手形 | 1,745 |
| 繰入金 | 948 | 固定負債 | 18,649 |
| 未収金 | 5,207 | 社債 | 10,000 |
| 短期貸付金 | 528 | 退職給付引当金 | 8,449 |
| 貸倒引当金 | 364 | 役員退職慰労引当金 | 199 |
| 固定資産 | 5 | 負債合計 | 57,543 |
| 有形固定資産 | 123,226 | | |
| 建物 | 55,940 | (資本の部) | |
| 構築物 | 8,724 | 資本金 | 11,681 |
| 機械装置 | 907 | 資本剰余金 | 13,181 |
| 車両運搬具 | 14,858 | 資本準備金 | 13,181 |
| 工具器具備品 | 101 | その他資本剰余金 | 0 |
| 土地 | 7,718 | 自己株式処分差益 | 0 |
| 建設仮勘定 | 13,585 | 利益剰余金 | 115,342 |
| 無形固定資産 | 10,045 | 利益準備金 | 2,920 |
| ソフトウェア | 74 | 任意積立金 | 99,498 |
| 施設利用権 | 21 | 圧縮記帳積立金 | 1,898 |
| その他の資産 | 36 | 別途積立金 | 97,600 |
| 投資有価証券 | 16 | 当期末処分利益 | 12,924 |
| 子会社株式 | 67,212 | 株式等評価差額金 | 5,243 |
| 出資金 | 39,252 | 自己株式 | 78 |
| 子会社出資金 | 14,797 | 資本合計 | 145,370 |
| 長期貸付金 | 412 | | |
| 長期前払費用 | 2,151 | | |
| 繰延税金資産 | 8,741 | | |
| 貸倒引当金 | 162 | | |
| | 1,450 | | |
| | 336 | | |
| | 93 | | |
| 資産合計 | 202,913 | 負債及び資本合計 | 202,913 |

- (注) 1. 子会社に対する短期金銭債権 4,028百万円
 2. 子会社に対する長期金銭債権 8,309百万円
 3. 子会社に対する短期金銭債務 2,968百万円
 4. 有形固定資産の減価償却累計額 118,412百万円
 5. 役員退職慰労引当金は、商法施行規則第43条の引当金であります。
 6. 保証債務等 4,723百万円
 7. 商法施行規則第124条第3号に規定された資産の時価評価により増加した純資産額は、5,243百万円であります。

損 益 計 算 書

(平成15年4月1日から
平成16年3月31日まで)

〔百万円未満切り捨て〕

| 科 目 | 金 | 額 |
|--------------|---------|---------|
| (経常損益の部) | 百万円 | 百万円 |
| 営業損益の部 | | |
| 営業収益 | | 195,076 |
| 売上高 | | |
| 営業費用 | | |
| 売上原価 | 172,682 | |
| 販売費及び一般管理費 | 9,000 | 181,682 |
| 営業利益 | | 13,393 |
| 営業外損益の部 | | |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息及び配当金 | 800 | |
| 雑収入 | 227 | 1,028 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 45 | |
| 為替差損失 | 796 | |
| 雑損失 | 197 | 1,039 |
| 経常利益 | | 13,381 |
| (特別損益の部) | | |
| 特別利益 | | |
| 有価証券売却益 | 230 | |
| 更生債権修正額 | 47 | |
| 貸倒引当金戻入 | 39 | 316 |
| 特別損失 | | |
| 有価証券評価損 | 21 | |
| 会員権評価損 | 4 | |
| 貸倒引当金繰入 | 16 | 42 |
| 税引前当期純利益 | | 13,656 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 5,192 | |
| 法人税等調整額 | 79 | 5,271 |
| 当期純利益 | | 8,384 |
| 前期繰越利益 | | 5,098 |
| 中間配当額 | | 558 |
| 当期末処分利益 | | 12,924 |

(注) 1. 子会社との取引高

 売上高 11,402百万円

 仕入高 11,177百万円

 営業取引以外の取引高 640百万円

2. 1株当たり当期純利益 118円67銭

重要な会計方針

(1) 有価証券の評価の方法

子会社株式および関連会社株式 移動平均法による原価法により評価しております。
その他有価証券 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法により評価しております。（評価差額は全部資本直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）
時価のないもの 移動平均法による原価法により評価しております。

(2) たな卸資産は総平均法による原価法により評価しております。

(3) 有形固定資産の減価償却方法は、定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法を採用しております。

(4) 引当金の計上方法

貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるために、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上しております。

過去勤務債務については、発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12年）による按分額を費用処理しております。数理計算上の差異については、発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12年）による按分額を発生年度から費用処理しております。

役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支出に備え、会社内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(5) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(6) ヘッジ会計の方法

通貨スワップ取引においては、振当処理の要件を満たしている場合は、振当処理によっております。

(7) 消費税の会計処理は、税抜き方式によっております。

(8) 当期より改正後の商法施行規則に基づいて作成しております。